‘１８　後志イベントめぐり情報　Vol.２

　今年は明治維新と北海道命名１５０年ということで、維新ゆかりの地や道内での関連スポットのバスツアー、「北海道」という名前を提案した探検家、松浦武四郎の企画展など様々な記念行事が行われていますが、ここ後志の古平町でも、北海道に古平町が置かれて１５０年というお祝いの年なのです。

　その記念として行われた植樹祭に、小樽開発建設部の職員５人で参加してきましたので、植樹の様子を少しだけレポートでお届けします。

古平町１５０年記念植樹祭

昭和２年(1927年)に建てられた古平町役場庁舎は、近代建築のレトロな雰囲気が魅力的❤

　雲一つ無い晴天の１０月２１日(日)、太陽だけじゃなく、雪虫やてんとう虫も大発生し、古平町の１５０年を賑やかにお祝いしているかのようでした。
　植樹する地は、小学校の高台グラウンド。涼しい風が吹き抜け、海まで一望できる絶好のロケーションです♪

貞村町長の開会の言葉で開催式がスタート！

お天気に負けないくらい爽やかな笑顔の、貞村町長(右)と松尾総務課長(左)。

来賓祝辞等のあと、植樹方法の説明(これが大事)。
ただ穴に樹を入れて土をかけるだけではないんですね。

植栽樹種は、エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ヤエザクラの桜３種類。それぞれ５０本ずつ１５０本を、参加者約１００人で植えていきます。

エゾヤマザクラは北海道を代表する桜、ソメイヨシノは日本で最も数が多い桜、そして、ヤエザクラはグラデーションの美しい桜とのこと。

植樹される前のグラウンド、準備が整っているようです。

当部の参加メンバー、右から廣部築港課長補佐、先川築港課長、阿部上席築港専門官、佐藤地域振興対策官(と、写真を撮っている渡辺)。

みんな我らの正装、作業服でばっちりキマッています。これから肉体労働が待っていますが余裕の微笑みです。

植樹といえば、北海道開発局の中で右に出る者がいないほど、港湾部門の人は植樹の機会が多いようです。お話を聴いていると、作業前から分担が決まっていて、穴を掘るのは阿部上席、土をかけるのは廣部補佐、先川課長は手を添えるだけ･･･どうやら力関係で作業が決まるようです(笑)。

･･･なんて言いながら、率先して重労働をしてくれる先川課長、オトコマエです。

今回は既に穴が掘ってありましたので、植樹の手順は、
１堆肥と土を混ぜる
２苗木を入れて土をかける
３苗木が傷つかないようクッション材で添木に結ぶ
の３ステップ。

初心者の渡辺も写真を撮るだけではなく、もちろん労働しましたよ。でも、肉体労働に適性がないせいか、みんなが紳士なためか、早々に「･･･無理しなくていいよ」。

１堆肥と土を混ぜる

２苗木を入れて土をかける

３クッション材で添木に結ぶ

チームワークばっちり!!

子供から大人までたくさんの人々が、開基１５０年の節目の年に植えた桜の樹。

日本人になじみ深い桜を植えることによって、樹の大切さや尊さを学ぶことも、植樹祭の目的の一つとのこと。

小学校のグラウンドに植えられた桜の樹は、古平町の子供達のための、良い木育の素材にもなりそうです。

古平に行ったら忘れちゃいけない、町特産の豊富な海の幸❤
お小遣いで食べるにはちょっと高かったけど、新鮮で美味しかった♪植樹でカロリー消費しても、体重増加中〜。

早ければ、来年の春には花をつける樹もあるそうです。この先１０年、２０年と経つうちに、それは見事な桜並木に成長し、満開の桜の下に集う人々を明るい笑顔にしてくれることでしょう。

古平町の皆さん、１５０年おめでとうございます。

古平町の皆さんの未来が、豊かに明るく躍進し発展されることを願い、また、たくさんの幸せが訪れることを祈り、植樹に参加させていただきました。

参加したわたし達の心も、未来の花盛りの桜と古平町を想像し、ほっこり温かくなった秋晴れの一日でした。

取材・文：小樽開発建設部　地域振興対策室

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して